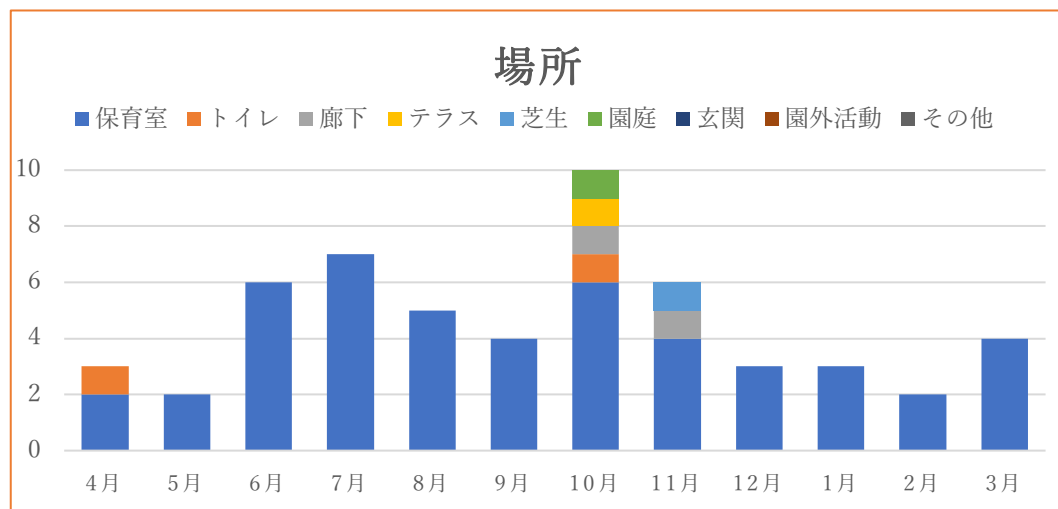
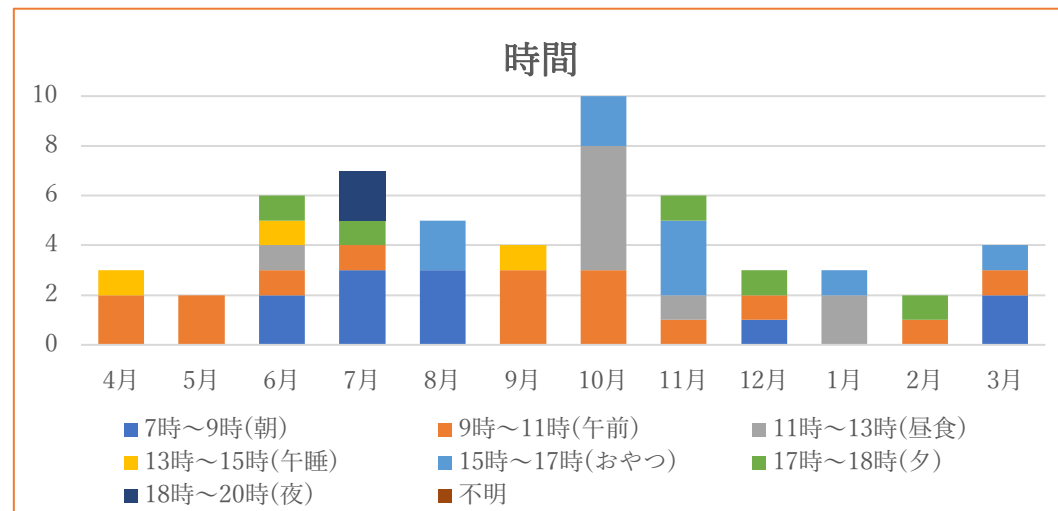
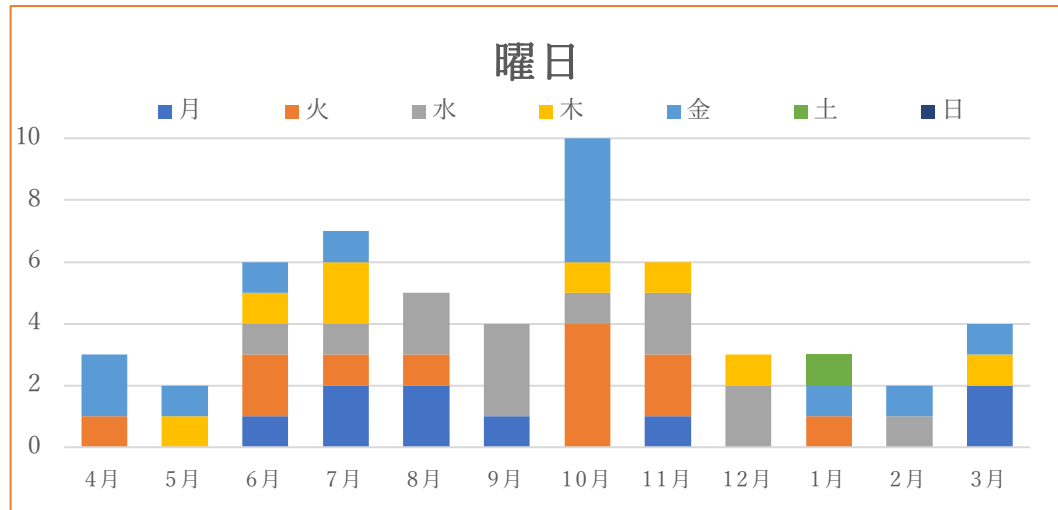


令和6年度 リスクマネジメント報告

<虹組 0歳>

ヒヤリハット



4月 4名中3名が新入园児だったため、慣らしで早く帰ることがほとんどだった。そのため、ケガ等は1～2件であったが後半は園生活に慣れてきて、活発さも目立ってきた。室内滑り台でつかまり立ちをしているところに、滑っている子の指があり噛みつきがおこってしまった。

5月 つかまり立ちや歩行が見られ動きが活発になってきたが、まだバランスが不安定でふらつきが目立つため、近くで遊びを見守っていく。転倒やそのはずみで柵にぶつかることがあった。

6月 全体的に動きが活発になり星組との交流が増えてきたため、玩具や場所の取り合いでのトラブルが起こる。星組で噛まれること、柵越しに引っ掻かれることが増えた。

7月 朝夕の職員が少ない時間帯に虹の部屋で未満児が合同で過ごす事が増えたため落ち着かず、一瞬目を離れたすきの噛みつきの怪我が多かった。人数や遊び方に合わせて畳の空間を使用し落ち着いて過ごすようにした。

8月 興味関心が高まり星組で他児との関わりが増えたことで、玩具の取り合いに伴って噛みつきによる怪我が増えた。運動量が増加し怪我也増えたため、遊び方の見本を示したり、仲裁に入ったりしていく。

9月 体のバランスが上手く取れず転倒が多い。バランス感覚が養われる遊びや運動遊びを取り入れて楽しみながら行っていた。

10月 木製玩具を口に入れて遊び木くずを飲み込みそうになった。また他児との触れ合いの中で、突然身体に乗る・押す・つねるなどの危険な動きが増えたので、環境設備をこまめに行い、玩具の使い方や他児との関わり方を子どもと一緒に遊びながら伝えていった。

11月 気持ちが上手く伝えられない際や、ふとした時にも他児への噛みつきが増えた。また玩具を持ち歩いてバランスを崩して転倒し唇を切るなどあったので、歩行は安定してきたが転倒に対処できるよう見守っていた。引き続き玩具の使い方や他児との関わり方を子どもと一緒に遊びながら伝えていった。

12月 滑り台やカラー肋木でバランスを崩しぶつけることがあった。動きが活発になってきたため、対処できるよう近くで見守っていた。噛みつきによる怪我也多いので、玩具数の調整、提供時間を工夫する。

1月 咄嗟に手が出ず滑り台でバランスを崩してふちに目の上をぶつける事が多いので、近くで見守りを徹底した。手を前に出す動きを引き出すため、軽い傾斜を作りハイハイでの移動や遊びを取り入れていった。狭い空間で密集して遊び、噛みつきがあったので一人ひとりのスペースを広げられるように対策した。

2月 友達と一緒に遊びたい気持ちが出てきたが、玩具や場所を取られた嫌な思いを言葉で伝えられず、トラブルになってしまった。みんなで遊びの共有し楽しむ経験を増やす関わりを心がけた。

3月 興味をひかれた遊びに途中から入ろうとして噛まれてしまった。全員が邪魔されたと感じず無理なく遊べるよう、玩具量の調節や遊びの空間を広げるなどしていった。

<まとめ>

言葉でやり取りができない分、噛まれてしまうことが全体的に多かった。転倒等を防ぐため室内は走らないように伝え、園庭で思い切り体を動かしていけるようにした。

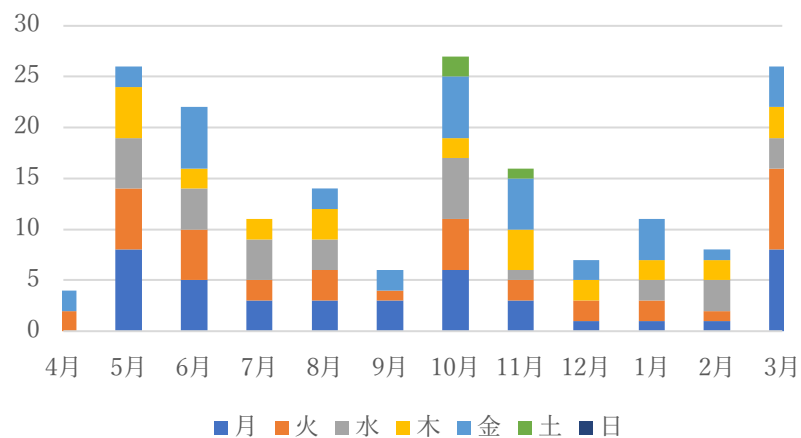
令和 6 年度 リスクマネジメント報告

ヒヤリハット

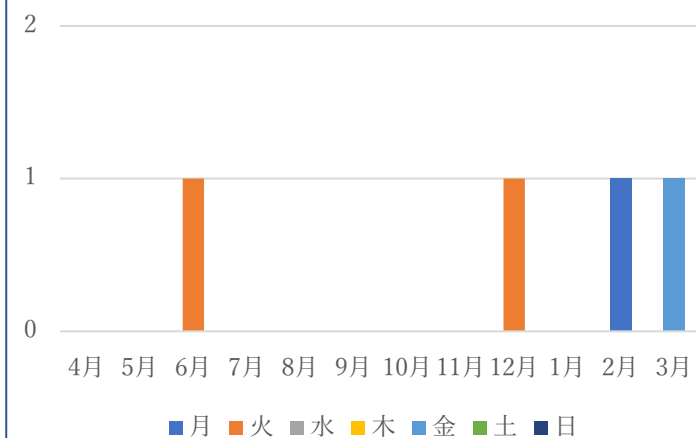
インシデント

＜星組 1 歳＞

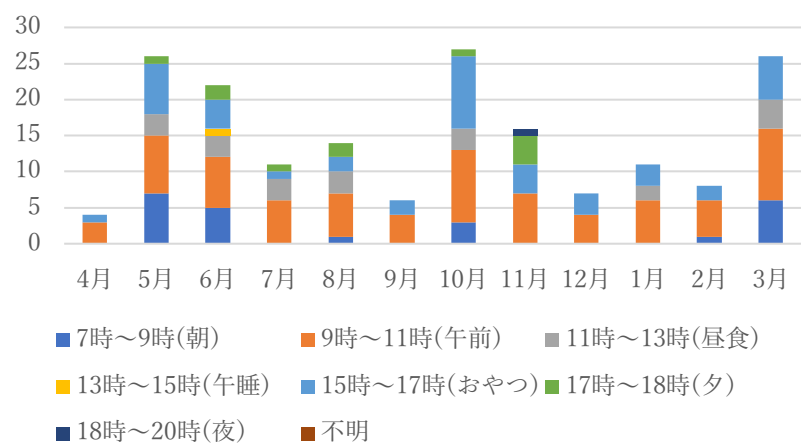
曜日



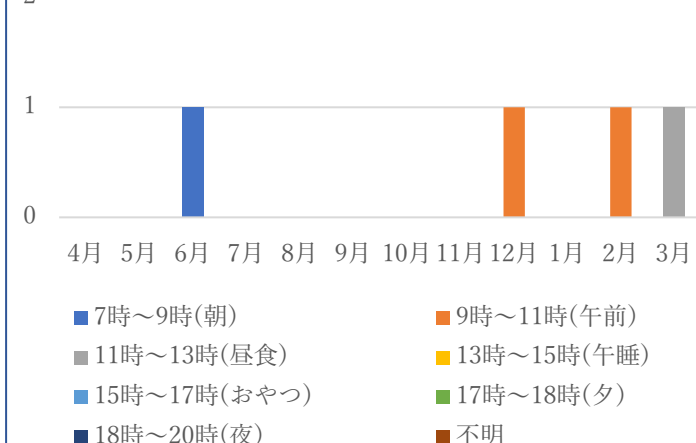
曜日



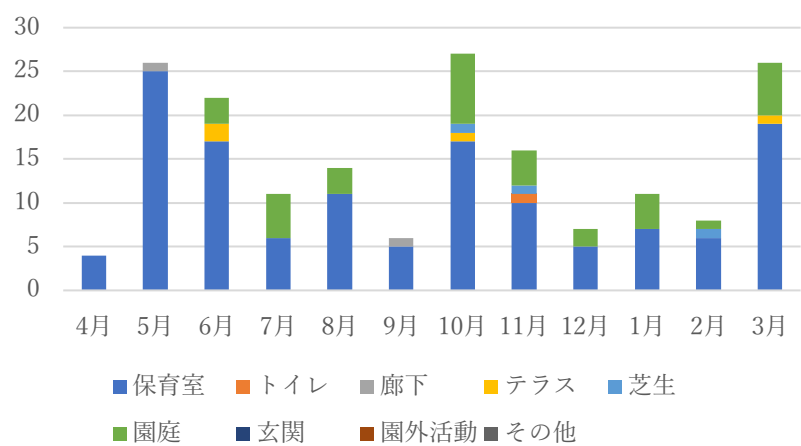
時間



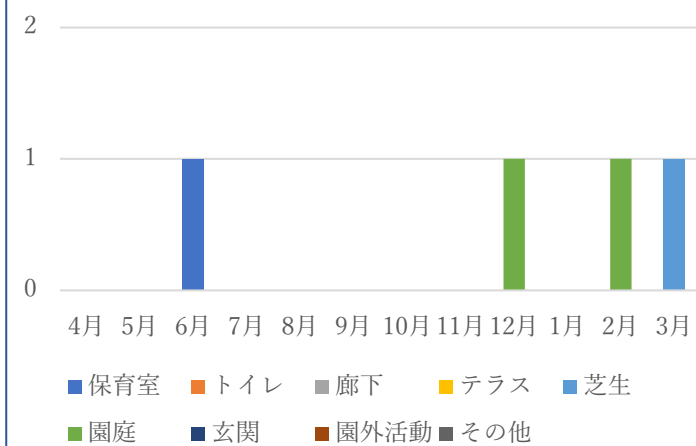
時間



場所



場所



4月 月齢が低く歩き始めた児がバランスを崩して転倒し、頭部をぶつけることが多くみられた。活動量や成長に合わせて虹組の部屋と分かれて過ごすなど、環境を整えていった。トラブルの際には言葉で気持ちを伝えることが難しく、噛みつきや叩いてしまうことが多くなっているため近くで遊びを見守っていった。

5月 肋木に登る児が増えたことで、バランスを崩し倒れぶつけてしまうことが増えた。挑戦する気持ちを大切にしながらも、上り下りの仕方や体の使い方を近くで見守りながら伝えていった。噛みつきをしてしまう児が限られているので、なぜ噛んでしまうのか気持ちを考えかわり方やケアを大切にしていっていった。

6月 場所や玩具の取り合いで噛みつきが多くみられる。引き続き対象児に丁寧に関わり、噛んだら相手が痛いことを伝えていった。戸外に出る際のテラスからの転倒があった。抱っこで下ろさずに自分で降りる体験を増やし近くで見守っていった。

7月 場所や玩具の取り合いでの噛みつきが多く、肋木からの転倒で唇のケガもあった。トラブルの際には丁寧にに関わり、簡単な言葉やジェスチャーで気持ちを伝えた。噛まれたら相手が痛いことを継続して伝えていく。肋木を行う際には、自分で上り下りしようとすることを大事にしつつ大人が可能な限りついていった。

8月 手に玩具を持ったままの滑り台、友だちと手をつないで歩きバランスを崩す、室内を走って他児とぶつかるなど転倒が多かった。室内では落ち着いた環境で遊べるように、活発に遊びたい子は廊下を使う・戸外へ早めに出るなど遊びの環境を整えていく。手に物を持って遊具で遊ばないように声をかけていく。また、体の使い方を遊びながら伝えていく。噛みつきは依然多い。

9月 玩具を口に入れて、取り出せなくなるヒヤリがあった。口に入る大きさの玩具は量を調節し、側に大人がついて見守る。噛みつきが依然として多いため、朝夕に太陽組で過ごして環境を変えた。噛んでしまう子の発語が増え、ジェスチャーで伝えようとする姿もみられたことから、引き続き簡単な単語やジェスチャーで相手に伝えられるように丁寧に働きかけていく。

10月 玩具の取り合いや保育者を独り占めしたい気持ちからくる噛みつきが多かった。引き続き、丁寧にに関わり簡単な言葉やジェスチャーなどで気持ちを伝えられるように働きかける。噛まれたら相手が痛いことを継続して伝えていく。

11月 テラスを走る、昇り降り等で転倒し顔を怪我することが多かった。テラスは走らないように伝え、テラスを自分で上り下りしたいという気持ちを尊重しつつ、声を掛けながら見守っていく

12月 おもちゃの取り合いや保育者を独り占めしたいという気持ちからくる噛みつきが多かった。引き続き、丁寧にに関わり簡単な言葉やジェスチャーなどで気持ちを伝えられるように働きかける。噛まれたら相手が痛いことを継続して伝えていく。

1月 室内や園庭を走っていてバランスを崩し、転倒し出血することが多かった。室内は走らないように伝え、園庭で思い切り身体を動かせるように促していく。

2月 引き続き、場所や園庭の水道の取り合いで噛みつきが多く見られた。バランスが取りにくい年齢なので、テラスや園庭で転倒し出血することがあった。テラスは走らないように伝えていく。また、自分で早く走ったり、ジャンプしたいという気持ちを尊重し、見守っていく。

3月 中庭で転倒し、フェンスに額をぶつけて病院受診するという事故があった。危険な場所を職員間で把握し、危険と思う場所や玩具があれば職員間で共有していく。

＜まとめ＞

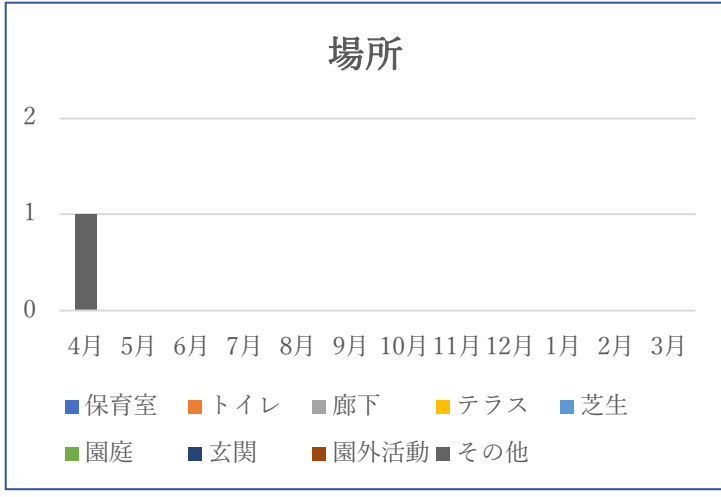
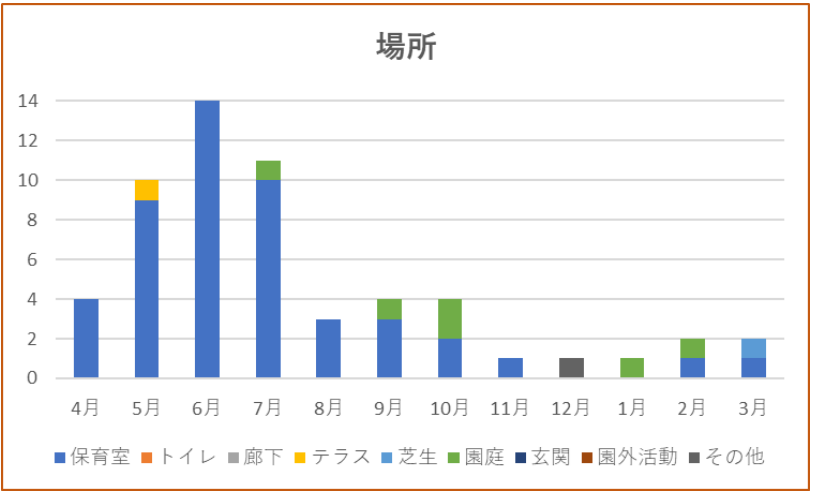
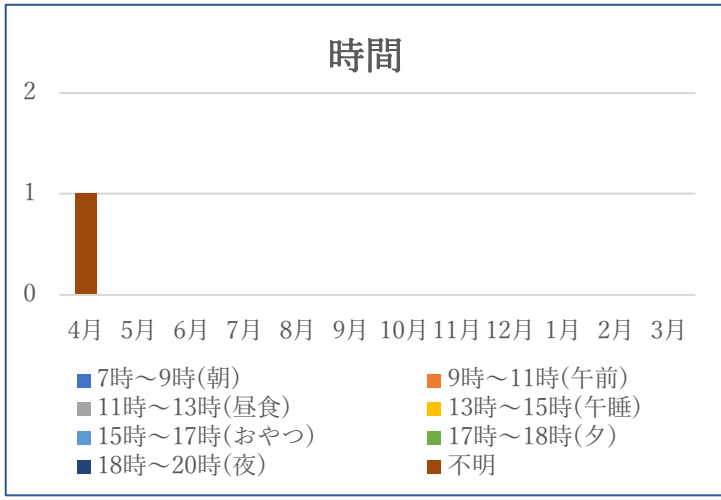
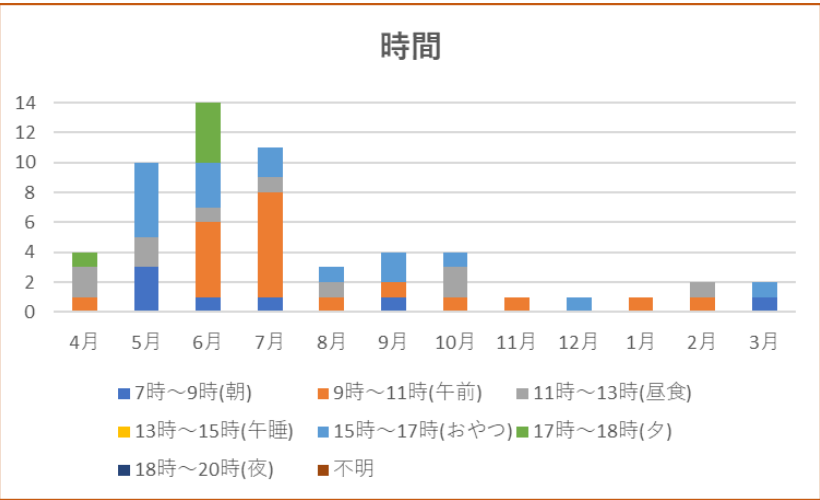
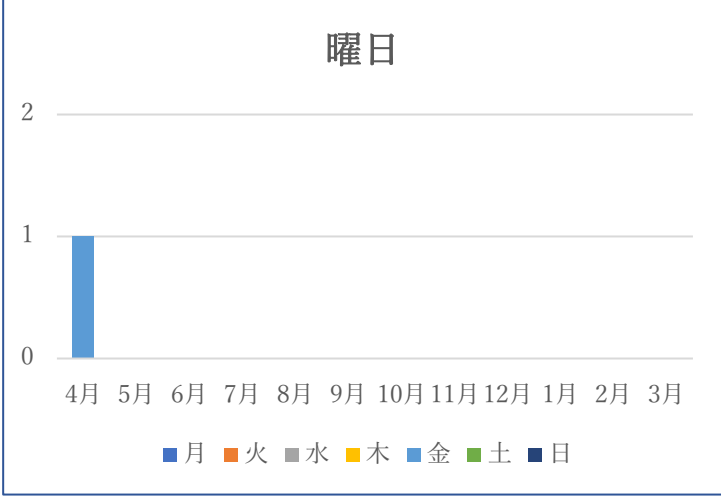
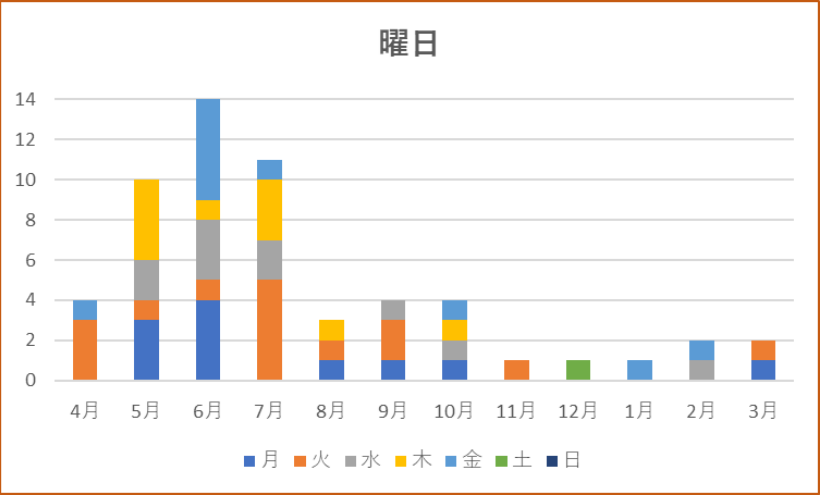
年間を通して噛みつきが多くみられた。噛んでしまうことに対しては噛んだら痛いことを丁寧に伝えていく。噛んでしまった理由もよく考え、保育者が間に入り気持ちに寄り添っていく。また、噛まれてしまった子どもへのケアをしていく。転倒も次いで多く、バランスを崩しやすい年齢でもあるが、子ども達のやりたいという気持ちを遮ることなく声掛けをし、注意しながら見守っていった。また、転倒した先にフェンスの突起があり、病院受診するという事故があった。危険な箇所があれば、対策をして職員間で共有・対策していく。

ヒヤリハット

インシデント

令和6年度 リスクマネジメント報告

<月組 2歳>



4月 手の届く場所に保育者がおらず、すぐに止められなかったため保育者の配置に留意した。子どもの人数に対する職員の人数が少ない場面があったため他クラスと連携をとった。言葉でのやり取りが少しずつできるようになってきているため引き続き子ども同士の関わりを見守っていく。

5月 肋木での怪我が2件あった。興奮状態で急いだために起きた怪我と、もう1件は肋木から降りる際床に足が届かなかったことによる怪我であった。肋木で遊ぶ際には必ず1人保育者がつくようにし、子どもの思いがけない行動で怪我につながってしまうことを頭に入れて見守る。星組で嘔みつきが増えていて、朝夕の合同の際にトラブルが多くなっている。全体で配置等の声を掛け合い未然に防げるようにする。

6月 押したり、叩いたりしてしまうトラブルが多くなり、特定の子の噛みつきも増えている。その都度言葉で気持ちを伝えるよう見本を示し知らせていく。被害児の子のケアだけでなく、加害児のクールダウンをはかりながら相手側の気持ちも伝えていく。

7月 噛みつきが多く見られた。気持ちを言葉で伝えられるようになってきたが、言うより早く噛みついてしまうことが続いているため、引き続き言葉で伝えることを保育者が示していく。

8月 噛みつきが多く見られた。星組児との関わりの中で噛まれてしまうことが多い。玩具等は保育者が仲立ちとなり、順番に使うことや複数人での使い方など様々な方法を示していく。

9月 8月同様噛みつきが多いため、保育者間で相談し遊ぶ場所や環境も子どもたちの様子に合わせて変えるようにしていき、熱中して遊べる空間作りを心掛けた。

10月 雲梯に興味を持ち、保育者の見ていないときに登って落ちてしまうことが何度もあった。保育者に声をかけてから行なうなどルールを確認し、保育者も必ず見守りを行った。言葉でのやり取りが増えてきたが言葉が強く、言い合いに変わってきている。

11月 友だちとの関係が深まり言葉で気持ちを伝えられるようになってきたが、手が出てしまうことが依然続いていた。最後まで言葉でのやりとりができるように、保育者が側で見守ったり仲立ちをしたりしていく。

12月 園庭から駐車場へとつながる門を開閉しようと、ドアノブを強く動かすことを繰り返し行っていた。鍵が閉まっていたため外に出てしまうことはなかったが、鍵がかかっているかの確認と保護者への施錠協力の声掛けを徹底した。他のドアでも同じように出ていけないよう、危険等の理由を分かりやすく伝え注意して保育していく。

1月 トラブルの際、気持ちを言葉で伝えながらも手が出てしまうため、困った時には保育者と呼ぶことを伝える。保育者が仲立ちとなることを子ども達にも理解してもらい、安心して遊んだり困った時には解決したりできるように援助していく。

2月 園庭の柵を越えて園舎裏へ行ってしまうようになるヒヤリがあり、隙間の取り合いをよく見かける。園外に繋がる場所は、出ないように紐を結び固定するなど対策した。室内でも隙間に入りたがっていることが多いので、大型の製作物等を子ども達と一緒に作り遊ぶことを通して発散させていった。

3月 友だち同士で抱き着いて転倒、室内で走って転倒するヒヤリ・インシが多かった。友だちとの接し方や距離感を知らせていくことや、保育室ではなく戸外や広い場所で肋木や追いかけっこなどを思い切り楽しめるよう子どもたちの姿に合わせて過ごしていった。

〈まとめ〉

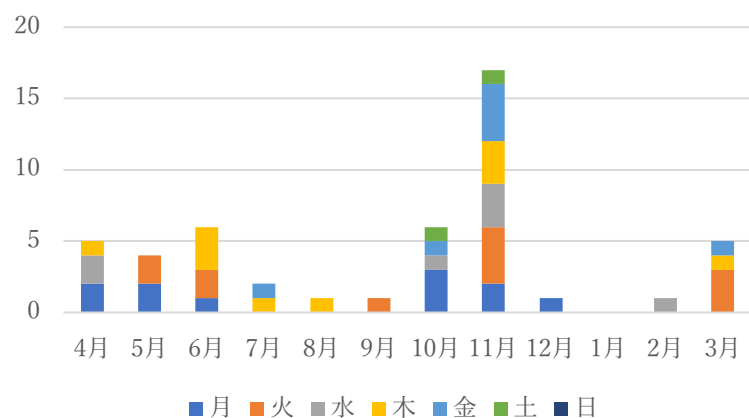
囁みつき、叩いたり押しなどの怪我が多かった。子どもたちが落ち着いて遊びに集中出来る環境を整えながら、保育者は声を掛け合って連携を取りながら遊びの仲立ちをしていった。また身体を動かす遊びで気持ちを発散し、その中で体の使い方も学んでいけるようにした。園庭門の開閉やフェンスを越えようとするヒヤリも見られたため、危険性を伝えていくとともに鍵は閉まっているか危険はないか等、定期的に点検を行っていく。

令和 6 年度 リスクマネジメント報告

<太陽組 3 歳>

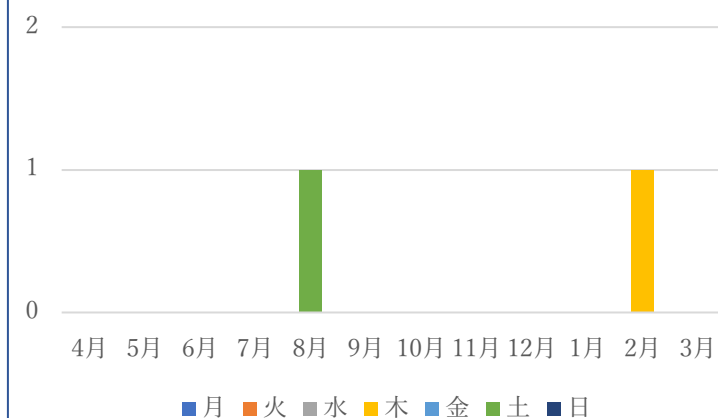
ヒヤリハット

曜日

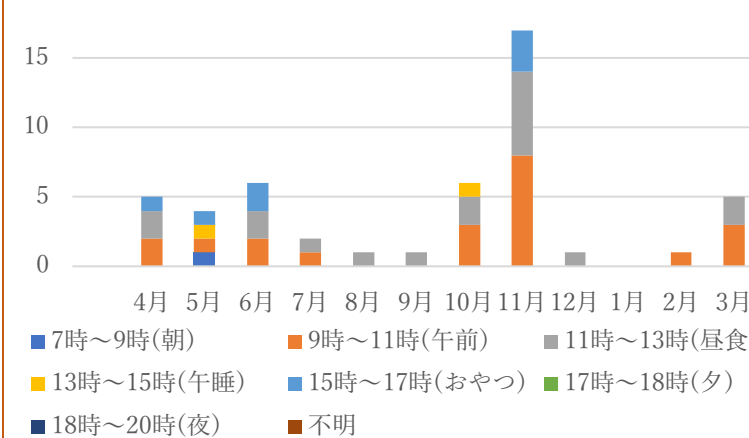


インシデント

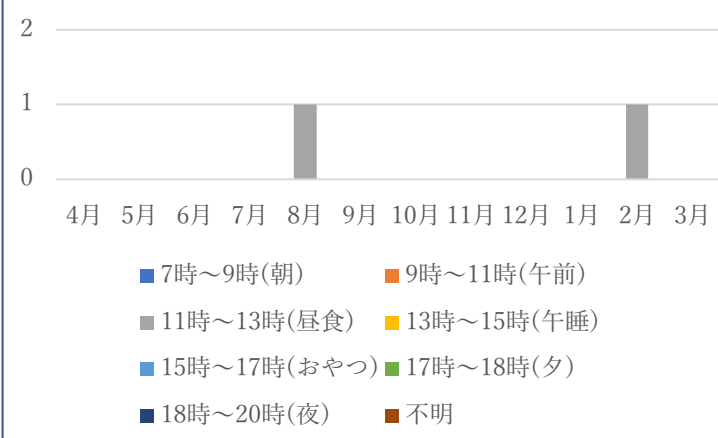
曜日



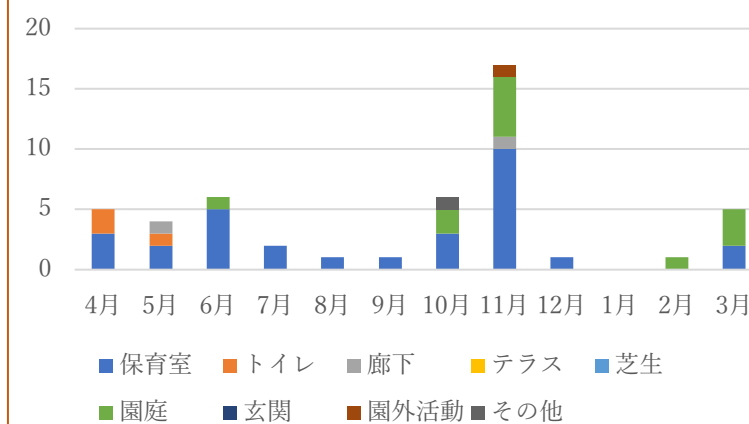
時間



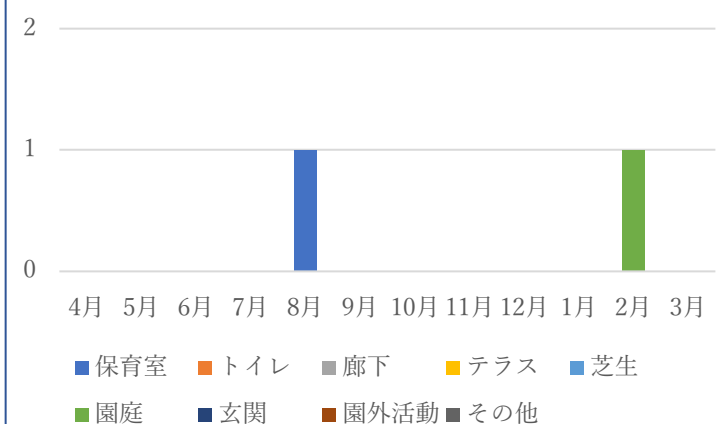
時間



場所



場所



- 4月** 身体が大きくなり活動の幅も広がったことで遊びがダイナミックになり、そこからの怪我が多くあったように思える。玩具や遊具などの使い方を日々伝えていく。
- 5月** 4月同様、戦いごっこや室内を走っている中での怪我が多かった。室内だけでなく、戸外で思い切り遊べるように外に出る時間を多く取っていく。
- 6月** 遊んでいる中で嫌なことがあって、言葉よりも手が出てしまう場面が多くなった。保育者が仲立ちとなって気持ちに寄り添いながら、言葉で伝えていくことを伝えていく。夕方の戸外遊び後の入室の際に人数確認ができておらず、職員が見落として一人園庭に残したままになってしまった。外に出ている人数を名簿でチェックし、入室前には目視で園庭の確認を行う。
- 7月** 子どもたち自身の不注意での怪我があった。遊び方、物の使い方を日々伝えていった。
- 8月** 物の使い方が雑になっていることが多くなってきた。物の使い方を一緒に遊びながら伝えていった。
- 9月** ピアノの部屋のパーテンションの開閉をしている中で怪我があった。開閉の際には職員と声かけあって行っていき、子どもたちにも近づかないよう伝えていった。
- 10月** 室内でジャンプをしていたり走っていて他児の足につまづいたりして転倒など、不注意による怪我があったので、クラスで集まった際に室内での過ごし方を子どもたちに投げかけ、お部屋の使い方を再確認していった。
- 11月** 滑ったり、バランスを崩したりなど身体のバランスを崩しての怪我が目立っている。また友達との関わりで相手が嫌がることをしてしまっただけでトラブルになってしまった。相手の立場だったらどうかな？と声をかけ、相手にも気持ちを伝えるなど大人を交えて三人で話す場面を作った。
- 12月** 友達に押されてぶつけた怪我があった。走っていたことが原因の一つだったので、走っていて転んだりしたらどうなるのか、繰り返し危険性を伝えていく。
- 2月** 戸外にある、鉄棒の前を横切り使っていた友達とぶつかる怪我があった。固定遊具を使っている時は周りをよく見ていくことを伝えた。
- 3月** 戸外での固定遊具に挑戦する機会が増え怪我が多く見られた。挑戦する中での怪我は、その子自身の成長につながると思うので、どうしたら次は怪我をしないか身体の使い方を伝えていき、握力をつけるためにも、鉄棒にぶら下がったりする機会を増やしていった。

<まとめ>

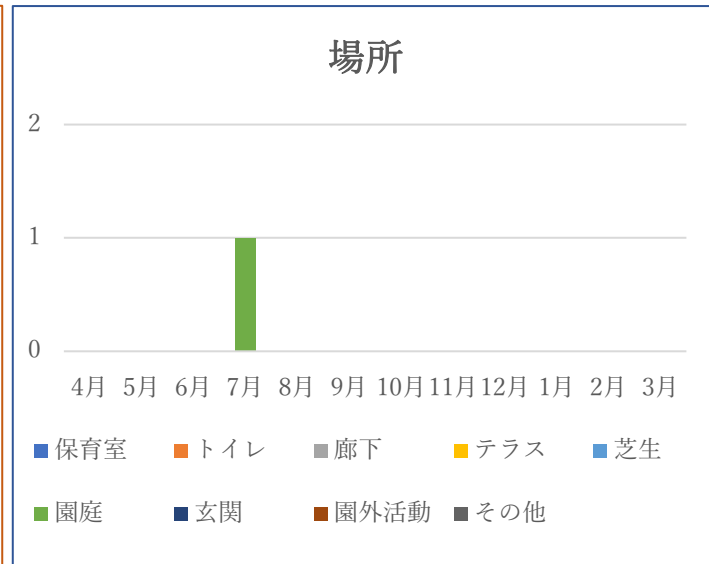
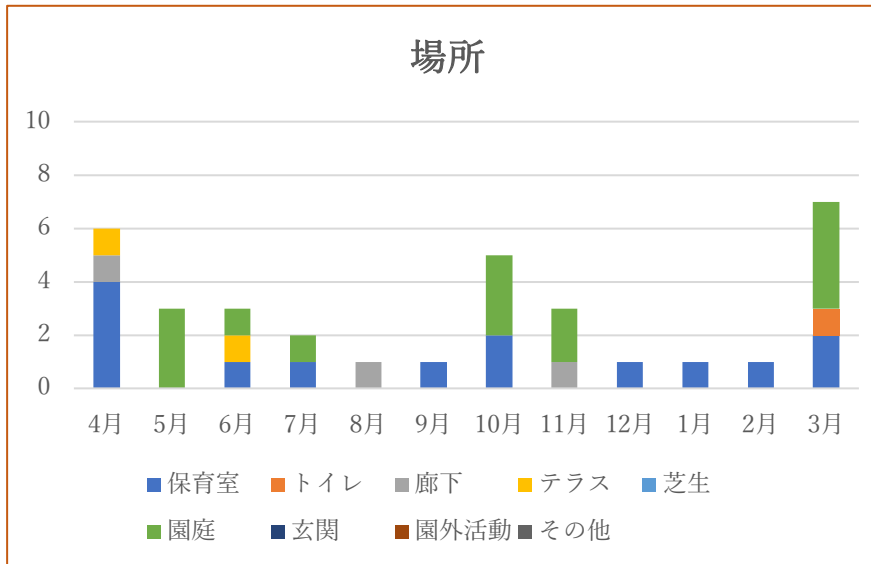
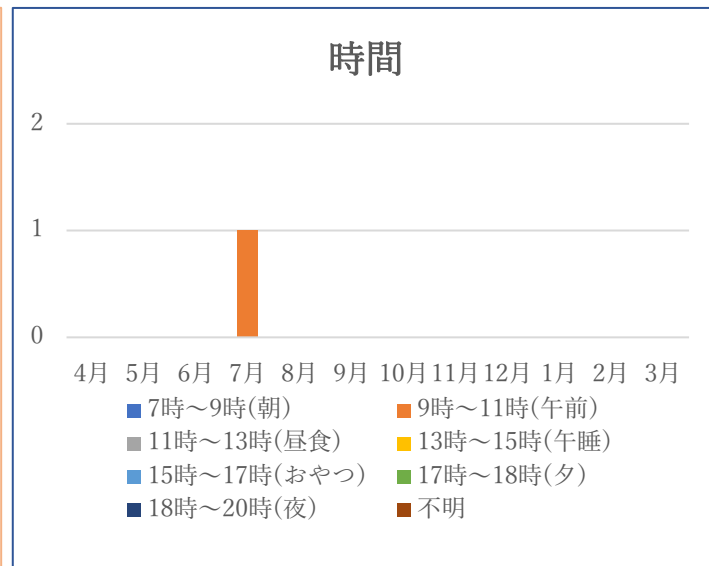
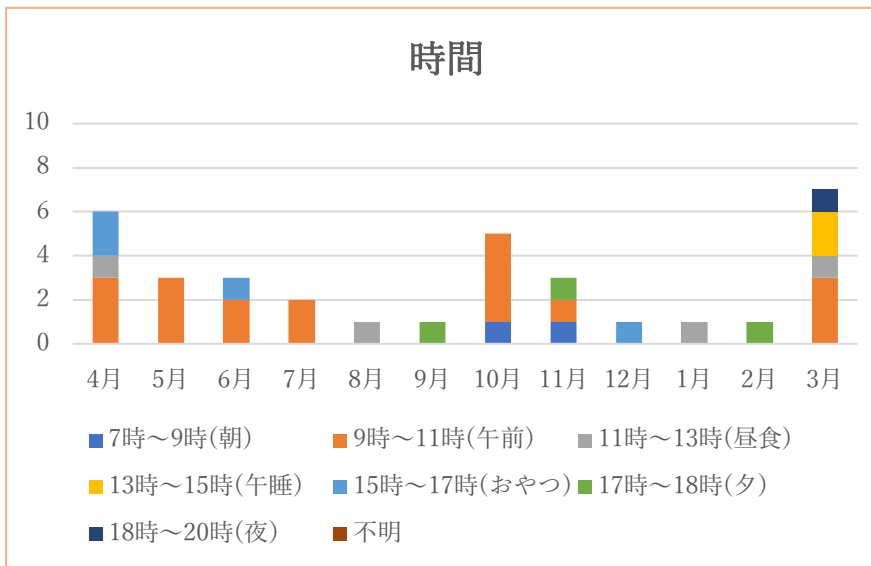
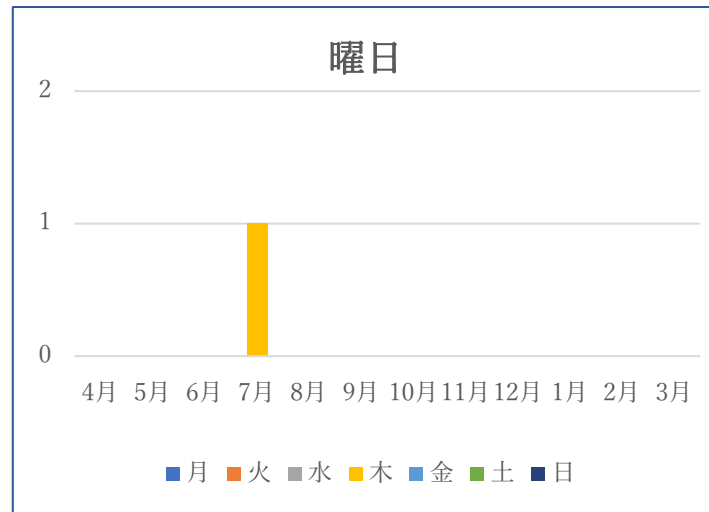
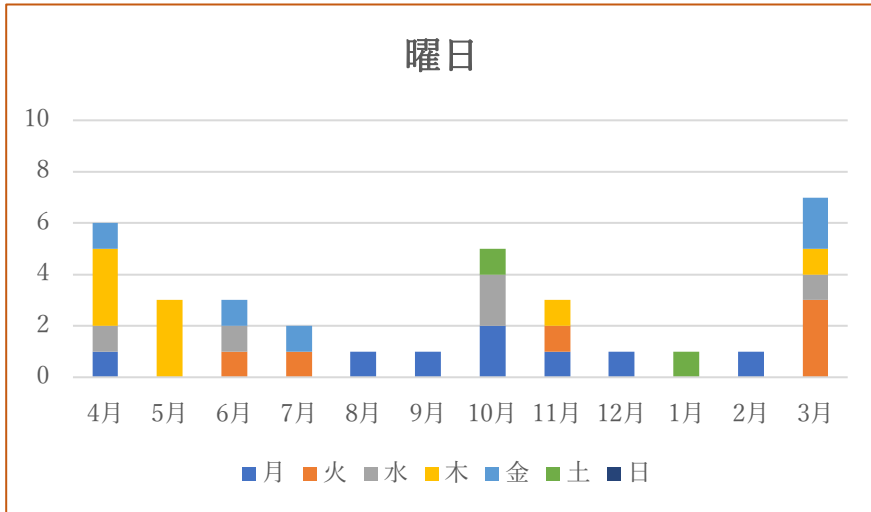
未満児から太陽組になり、一人ひとりの挑戦する姿が多く見られた。その中での怪我については、その子自身の成長に繋がっていたので保護者に遊びの様子を伝え、今の段階について理解してもらえるように努めた。年度の後半になるにつれ身体の使い方や自身の力量に気づかず、小さな怪我が前年度と比較して多くなったので、一緒に遊びながら体の使い方を伝えていった。

令和6年度 リスクマネジメント報告

<太陽組 4 歳>

ヒヤリハット

インシデント



4月 友だちと関わりながら過ごす中で気持ちのすれ違いや、自分の思い通りにならず咄嗟に手が出てしまうなどトラブルに発展、怪我に繋がってしまうことが多かった。相手の気持ちを保育者が代弁したり、どんな気持ちか一緒に考えたりし、思いを言葉で伝えられるように関わっていく。

5月 4月よりは減ったものの、手が出てしまうことが多かった。友だちの仲裁をするときにひっかいてしまうなど、また別のトラブルに発展することもあった。トラブルになりそうな場面には保育者が近くに付いて怪我に繋がらないよう見守り、手が出てしまいそうになったら間に入り落ち着いて話ができるようにする。

6月 固定遊具での怪我、特に鉄棒での怪我が多かった。逆上がりを練習中の児が多い為、手を離しそうになる場面もあった。鉄棒を行う際、必ず手は離さないことを繰り返し伝える。固定遊具を行う際は必ず側に付き、一人ひとりの身体能力に合わせてサポートしていく。

7月 4月に比べて怪我の数がだいぶ減った。トラブルの際もまだ手は出てしまうが、保育者に伝えに来ることが増えた。トラブルが起きた際話し合いで解決できるように間に入り丁寧に関わっていく。

8月 大きな怪我はなかったが、タオル掛けにぶら下がり後ろに転倒したり、木製パーテーションにぶら下がり浮き上がったりすることがあった。特に木製パーテーションは重く、浮き上がったところに挟まると大きな怪我になるため、木製パーテーションには登ったりぶら下がったりしないように声掛けをしていく。

9月 箱椅子を積み上げておうちごっこをしたり、並べて上を歩いたりして遊ぶ児が多く、バランスを崩して椅子から落ち、怪我をした児がいた。椅子を積み重ねると落ちてきた時に怪我をする恐れがあるため、他のもので代用できるよう環境を整えていく。また椅子の上は歩かないよう声掛けをしていく。

10月 ロッカーやパーテーションに登っている児が多く、怪我に繋がった児もいた。ロッカーやパーテーションには登らないことを繰り返し伝える。高いところに登りたい気持ちが満たされるよう、肋木などの遊びを増やしていく。

11月 雲梯で手を滑らせ落としてしまうことがあった。雲梯が上達し慣れてきたことで、速度が上がってしまいそのまま高い方をスタートすると、勢いが付き滑るので注意して見ていく。

12月 ラティスのすき間に足をいれ、抜けなくなりました。ラティス以外にもすき間に足を入れてしまう児がいるので、危険性を伝えていく。また、ラティスが倒れそうになることもあるので土台を固定する。

1月 土日祝の昼食の時間に、他児のお弁当のおかずを食べてしまった。誤嚥などの危険性も考え、食事中は目を離さないようにしていく。平日の給食でもありえることなので、他児のものは食べないことを伝えていく。

2月 未満児からの噛みつきがあった。以上児には噛みつかないだろうという油断から噛みつきが起こってしまったため、どこで遊んでいるかを把握し職員同士声を掛けながら見守っていく。

3月 登った木から降りる時に枝に引っ掛かり怪我をすることが多かった。木登りに挑戦しようと思った気持ちを大切に、次のステップに自ら進めるように見守る。とがった枝は切る。

〈まとめ〉

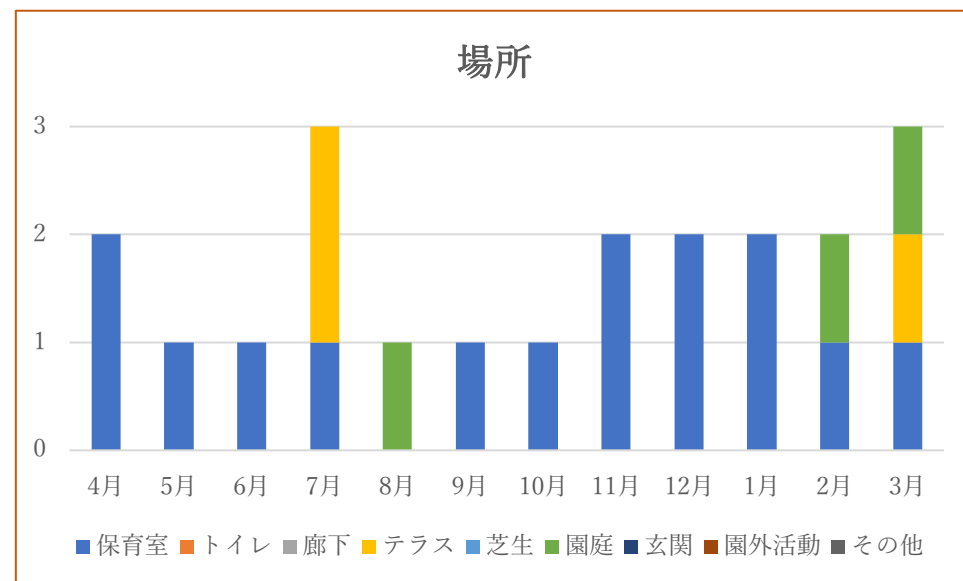
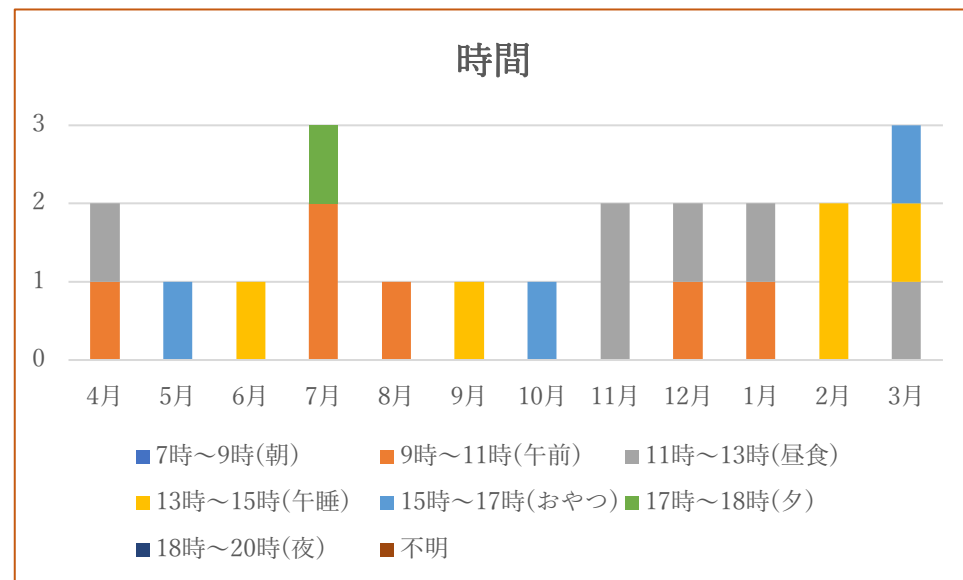
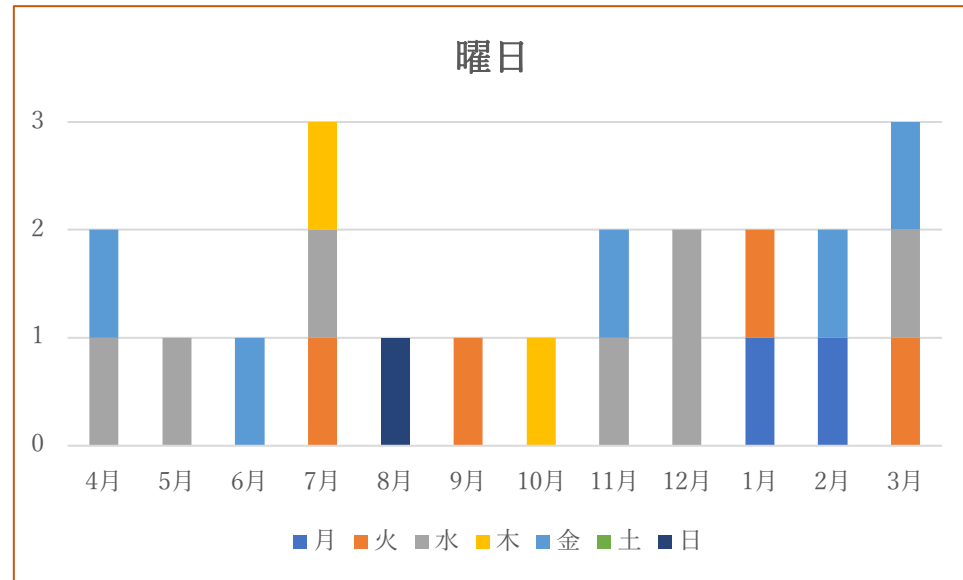
4月～7月は気持ちのすれ違いによるケンカや、手が出てしまうことが多くあった。保育者が仲裁に入って相

手の気持ちを代弁し、どんな気持ちなのかを一緒に考える関わりを続けた。8月ごろからは手が出るのが減り、保育者に伝えたり、自分で友だちに気持ちを伝えたりすることができるようになった。年間を通して固定遊具での怪我も多くあったが、怪我をすることで少しずつ身体の使い方を覚えることができた。

令和6年度 リスクマネジメント報告

<太陽組 5歳>

ヒヤリハット



- 4月** 保育室を駆け回って転んで柱の角にぶついたり、気持ちが高揚しスピードのある動きをして転び、切り傷を作ったりと室内の怪我が多かった。登園してからやり場のない体力を発散させる場所の提供が必須と考える。職員配置の面で可能な日は、早めに戸外に出る・ピアノ室を空けるなどの対策をした。
- 5月** 一つのことに集中するあまり周囲に目が向けられず、不注意でぶつかるなどして怪我をした。行動の見通しが持てるような声掛けを行う。
- 6月** テーブルを2段重ねにするなど、午睡時に危険な状況があった。普段から災害時を意識して環境を整え用心していく。
- 7月** アートコーナーの道具（ハサミ、色鉛筆）での怪我が起こる。またテラスにて友だち同士でのトラブルによる噛みつきや、引っ掻きによる怪我が多発した。暑さで戸外で遊べる時間が短くなり、室内で過ごすことが増えたので、職員の見ていない死角や空間にも子どもが居ることが増えた。そういった場所を気にかけていくと共に、体力や気持ちの発散方法を考えていく。
- 8月** アートコーナーの道具（ハサミ、色鉛筆）での怪我が起こる。また、テラスにて友だち同士でのトラブルによる噛みつきや引っ掻きによる怪我が多発した。アートコーナーの物に慣れてきて、扱いが上達してきている一方で雑にもなっているので、見守りと声掛けを行った。
- 9月** 段ボールで遊んでいて転倒し、周囲のテーブルなどに身体をぶつけた。段ボール遊びの際どんなことに注意したら良いのかを子どもと一緒に確認していく。（入って遊んだり、絵を描いたり、切ったりと遊び方は様々）
- 10月** ロールマット芯からジャンプしてバランスを崩して床に体をぶついたり、立てたり斜めにして本来の用途とは別の使用方法で遊んで倒れたりして危なかった。何度か声掛けを行っているが改善されないのは、そういう遊びをしたいからなので、代わりになる何かの提供、または子どもと一緒にそれについて考えていく。
- 11月** ロールマット芯をステージに見立て数名でその上に立って遊ぶが、マット自体に重みがない為すぐに転がって落ちてしまうことが何度かあった。マットの安全な使い方を話しながら、安全に楽しく遊ぶ方法や場所を一緒に考えていく。
- 12月** 友だちとぶつかりアザを作ったり、ハサミで切ったりしてしまう。楽しさのあまり、周囲が見えずにぶつかってしまうので、活動を行う場所が適正かを見直したり、その場所でどんな活動なら危険ではないかを考えたりしていく。
- 1月** コーナーを仕切る木製のパーテーションやロッカーの上に登ってしまうなど危険な場面が見られた。環境に慣れ、油断してそこに登って落下することも度々あった。場所を変えてもそれを足掛かりに他の物に登ってしまうので、見かけた時には声を掛け行わないよう促していった。
- 2月** 友だち同士で叩く、引っ掻くトラブルによる怪我が何件かあった。戸外遊び中に走って物を避け切れなかったり、地面の起伏につまずいて転び怪我をしたりすることが何件もあった。就学への不安の表れなのか、落ち着きのない子が増え、行事も多く目まぐるしいが、気持ちを受けとめゆったりとした雰囲気の中で保育していく。缶蹴りなどの鬼ごっこで転倒する子が多いので、場所を広くしたりしてやりやすい方法を考えていく。
- 3月** コマ作りの材料の爪楊枝やペットボトルの蓋が散乱していた。コマ作りをする子たちには付き、片付けまで丁寧に見ていく必要がある。棒を振り回したことで背後にいる友だちが怪我をし、また自分も木の屑が目に入った。友だちが走って来てぶつかり、眼鏡が破損。木の棒を振り回すことは危険なことなので、改めて確認していく。

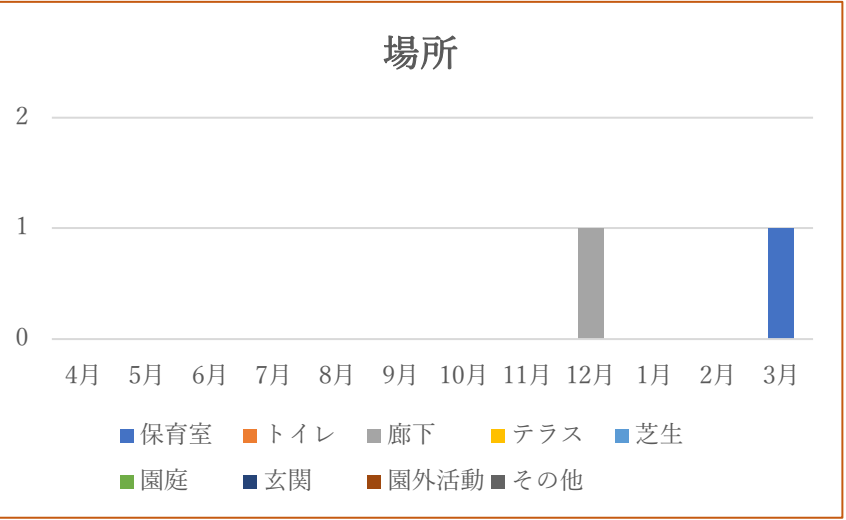
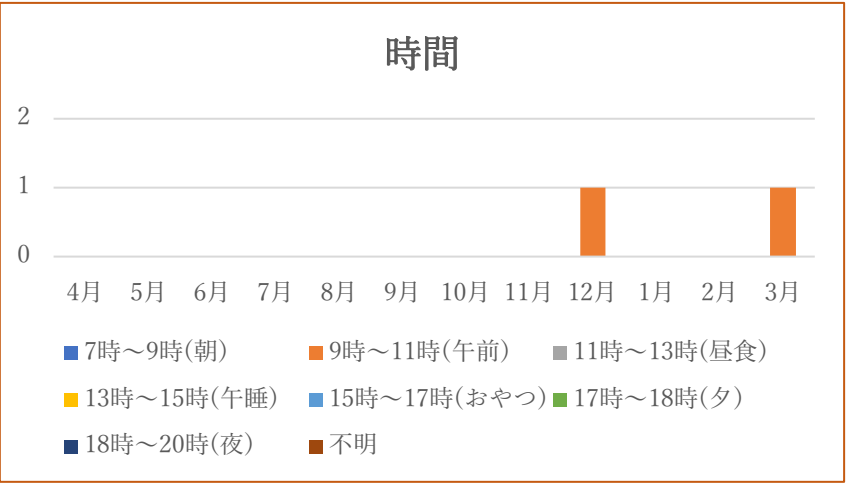
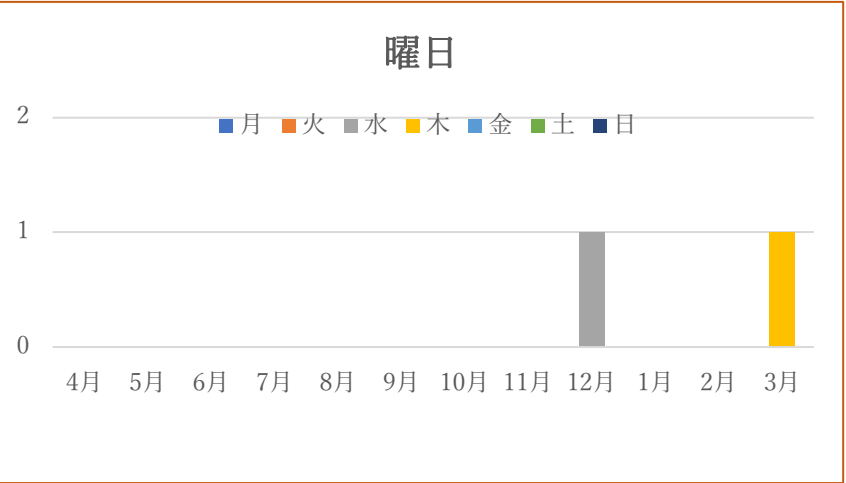
<まとめ>

友だち同士のトラブルも無いわけではないが、年間を通して周囲の状況が見えずに怪我をしたり、させてしまったりが目立っていた。子どもの特徴としては致し方ない部分もあるが、もう少し周囲に気を配り、見通しを持つ力を養うために、普段からの丁寧な声掛けと環境整理を心掛けた。

令和6年度 リスクマネジメント報告

＜子育て支援＞

ヒヤリハット



- 12月 リトミックの時に使用しているスカーフに足をとられて転倒しそうになった。講師と参加者の動きをよく見て足元の危険と思われる。ものに注意を向けるよう声掛けをしたり、保護者に注意を促す
- 2月 歩き始めたお子さんが転倒した際に歯があたり切った。歩き始めたお子さんから目を離さないようにする

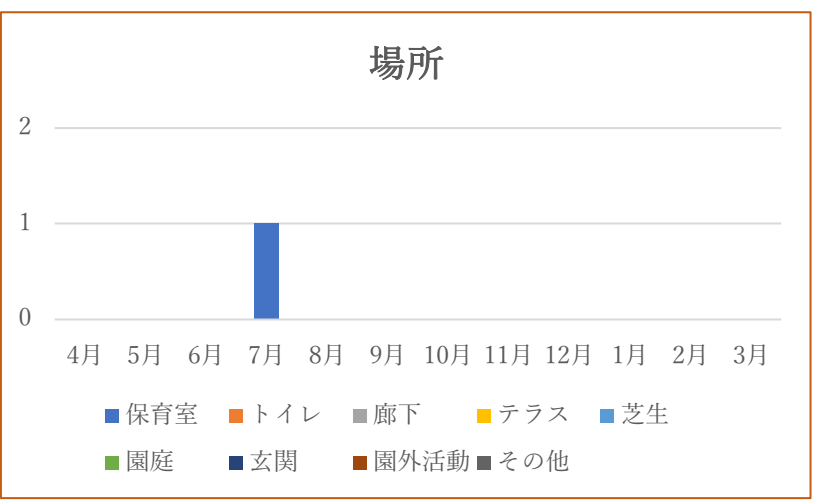
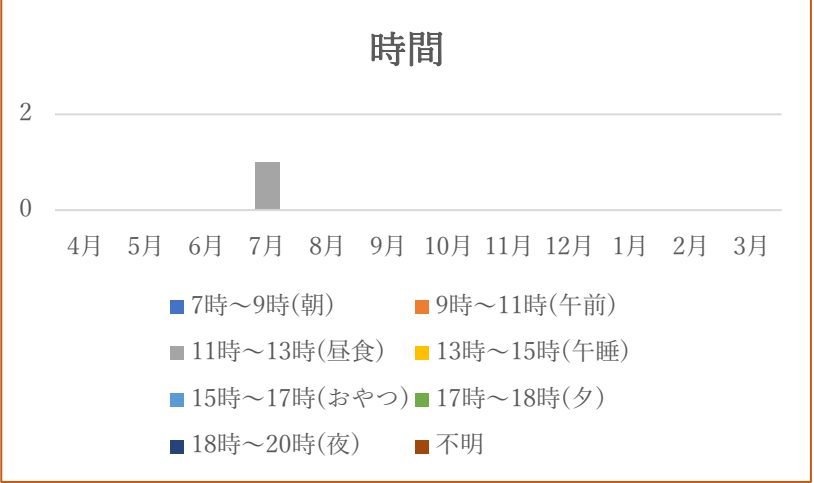
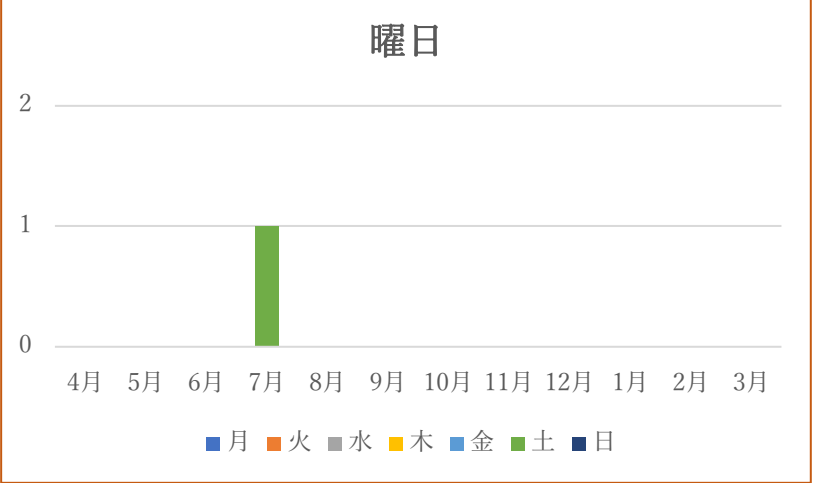
＜まとめ＞

保護者と一緒にお子さんの動きに注意を向ける。

令和6年度 リスクマネジメント報告

＜給食＞

ヒヤリハット



- 7月 園で採れたプチトマトをそのままの形状で提供してしまった。提供前に保育士が気付き防ぐことはできた。土曜日など一人で作業を行う時は特に、誤飲の危機意識を持って業務にあたる。

＜まとめ＞

プチトマトは給食での提供がなかったため、小さいものならカットしなくてもよいのではという当日の自己判断で行ってしまった。今後は自己判断せずに必ず質問、確認する習慣を職員間で共有した。